

多賀町立博物館「アケボノゾウ」 発見の歴史

多賀町立博物館ガイド

1993年2月 <アケボノゾウの化石発見>
びわこ東部中核工業団地開発時、偶然、
寛骨（おしりの骨）、左切歯の一部が見つ
かる。

1993年3月
全身の骨が産出

1993年4月

臼歯の植立した下顎骨が産出
右前あしは小さな骨までつながった完
璧な状態で産出した
老いた象らしいという事もわかった

1993年4月～1994年

化石クリーニング

1995年～1996年

レプリカから全身復元骨格を制作



1997年
完成

1999年3月
多賀町博物館開館

2022年3月15日

アケボノゾウ化石多賀標本が国の天然記念物に指定
今も発掘調査をしている

【それは、このひとこと
から始まった】

1993 3/5 夕方







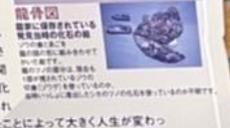


やっぱりゾウの牙だった

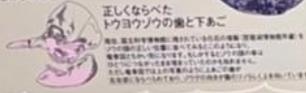


1993 3/5 夕方

歳で、息子さんと2人で山を駆け回り、開いていたところ、11月7日か8日頃、えたいの知らない骨を見つけました。この発見は遠くまでわきになったため、市朗兵衛さんは代官所にときました。このえたいの知らない骨はとどきまに差し出され、当時の学者によって**龍の骨**だということになりました。発見場所には龍を祭るための祠(ほこら)が建てられました。



「龍骨(リョウこつ)」の発見者、市朗兵衛さんはとどきまからごほうびとして米10石を与えられ、さらに「龍(りょう)」という名字も与えられ、当時二人していた農地の板を免除されました。さらに化石を見つけてから13年後には代官にとりたられるなど、化石を発見したことによって大きく人生が変わってしまいました。現在でも市朗兵衛さんのお子孫の龍さんは化石が発見されたところに住んでおられ、発見当時の記録帳や、今でも残っている祠を大事に守っておられます。化石の方はその後研究で龍ではなく**トウヨウゾウ**というゾウの骨と分かり、現在では、その大部分が国立科学博物館に保管されています。



トウヨウゾウは、約50万年前から30万年前まで日本にいたゾウですが、アケボノゾウと同じステゴダンのなかとです。



トウヨウゾウの化石(龍骨)の複製品

アケボノゾウの化石(龍骨)の複製品

河川の河原から見つかるたくさんのアケボノゾウの化石は、いつの時代のもので、どんな環境で暮らしていたのでしょうか。

この謎を解くために、滋賀県内の学校の3人の先生(田村幹夫氏、小早川隆氏、西森清氏)は、1990年頃から河原を歩いて、調査してきました。特に大雨が降った後などは、新しい化石が出てくるかも知れないため、かかさず河原を歩いていました。そんな20年にも及ぶ調査の末、1998年11月1日、地層に入ったままのアケボノゾウの化石を発見されました。

発見された化石の大きさを比較して、その場所を調査する様子

発見された化石の大きさを比較して、その場所を調査する様子

ゾウの切歯の構造

ゾウの切歯は、歯の根元から歯の先端まで、歯の組織が層状に積み重なっています。この層状の構造は、ゾウの年齢や性別を判断する手がかりになります。

ゾウの切歯は、歯の根元から歯の先端まで、歯の組織が層状に積み重なっています。この層状の構造は、ゾウの年齢や性別を判断する手がかりになります。



アケボノゾウの化石(龍骨)の複製品



【牙を集める】

1993 3/6





【現場を確認、取り合えず
掘ってみよう】

1993 3/7夜～3/8早朝

と運搬
平成5年

臼歯つき下顎の奇跡的な発見
1993 (平成5) 年



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。



臼歯つき下顎の発見。発見された臼歯つき下顎は、発見された場所から約100メートル離れた場所から発見された。

【鹿の化石で徹夜～シカタ ないか】

1993 3/7 夜～3/8 早朝



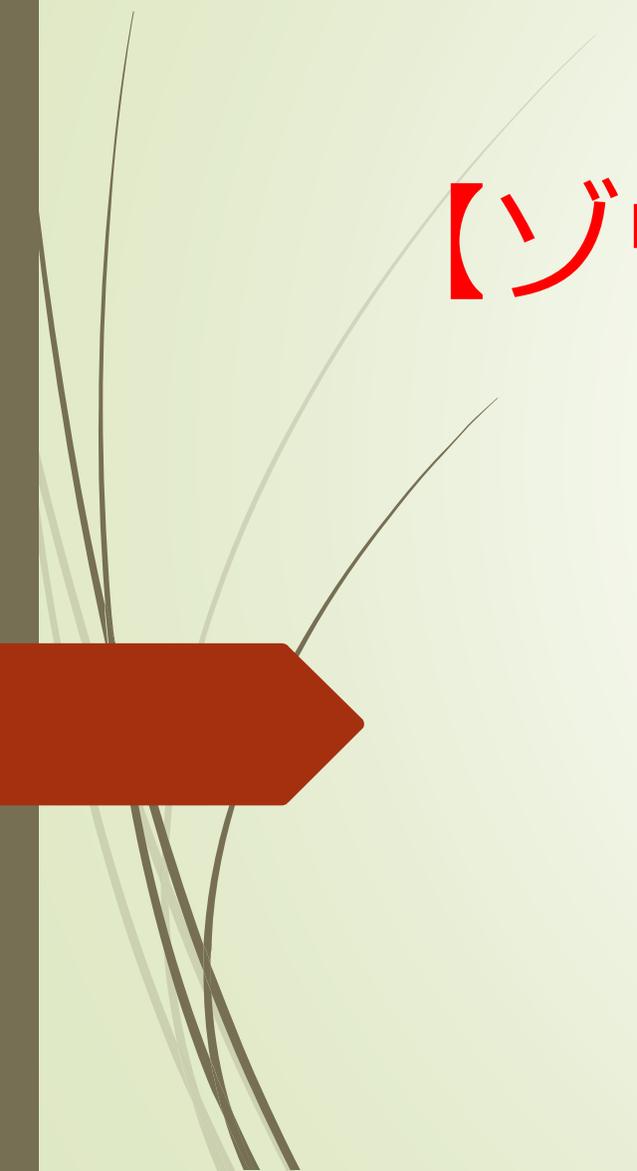
下の骨 (左側歯)

下アゴの骨 (下顎骨)

舌の付け根の骨 (舌骨)

腕骨

標本が



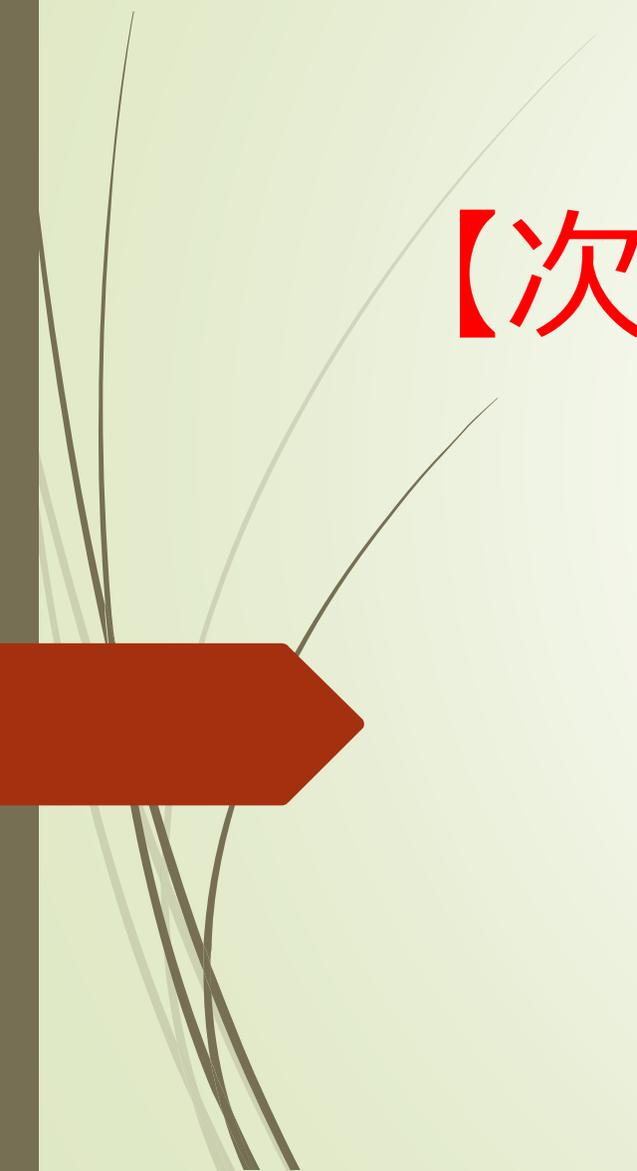
【ゾウはどこへ行った？
シカ では終われない】

1993 3/8



【ついに2本目が出たぞ、
2度目の徹夜】

1993 3/10～3/11朝



【次々に骨が見えてくる、
もう限界だ】

1993 3/11 午後









多賀町博物館クイズ

5問正解して商品をゲットしよう！

① 1993年多賀町で発見された「アケボノゾウ」の化石は2022年3月に国の天然記念物に指定されました。陸上大型ほ乳類化石としては国内初ですが、先に大型動物化石として天然記念物に指定されたのはどれですか？

- ① ムカシマンモスゾウ
- ② 恐竜
- ③ ナウマンゾウ

② 日本の象の化石で、産出地域数が一番多いのは、ナウマンゾウです。その次がアケボノゾウです。アケボノゾウは象の進化の歴史の中で古い種類の象と考えられていたため、夜明けを意味する「あけぼの」から名付けられたと言われていています。さて、ナウマンゾウの名前の由来は何でしょう？

- ① ナウマンゾウはナウマン層という地層から見つかった。
- ② 長野県上水内郡信濃町奈羽間(なうま)で見つかった。
- ③ 化石研究者のナウマンという人からとられた。

③ 人間の骨の数は大体206と言われています。成長と共に骨同士がくっついて減ると言われます。さて、象の骨の数はいくつでしょう？

象の種類によって変わります。

- ① 326～351
- ② 212～243
- ③ 421～440

- ④ 化石から過去にはたくさんの種類の象が地球にいましたが、現在はアフリカゾウ、アジアゾウともう一種類の象が生息しています。何というでしょう？
- ① ダンボゾウ(ディズニーのアニメの主人公の名はここからとられた)
 - ② マルミミゾウ(森林に多く住む)
 - ③ イマミタゾウ(人間を見ると興奮して襲ってくる)

⑤ 多賀町の東側は鈴鹿山脈が南北にはしり、国の特別天然記念物の「カモシカ」が生息しています。「カモシカ」は何科の動物でしょう？

- ① うし科
- ② しか科
- ③ うま科

アクセス

電車の場合

近江鉄道 多賀大社前下車 徒歩25分

JR琵琶湖線（東海道線）「彦根駅」乗り換え 近江鉄道「彦根駅」から
「高宮駅」経て「多賀大社前駅」へ

バスの場合

JR琵琶湖線（東海道線）「彦根駅」下車の後、西口から湖国バス3番乗り場

「工業団地経由多賀町役場行」に乗車、「あけぼのパーク多賀」下車（乗車約20分）

自動車の場合

名神高速道路 彦根ICから国道306号線を八日市方面へ約5Km,多賀北交差点を東へ左折（10分）



終 了



ご清聴ありがとうございました。